

京都府におけるクラスター感染の発生状況

凡例：

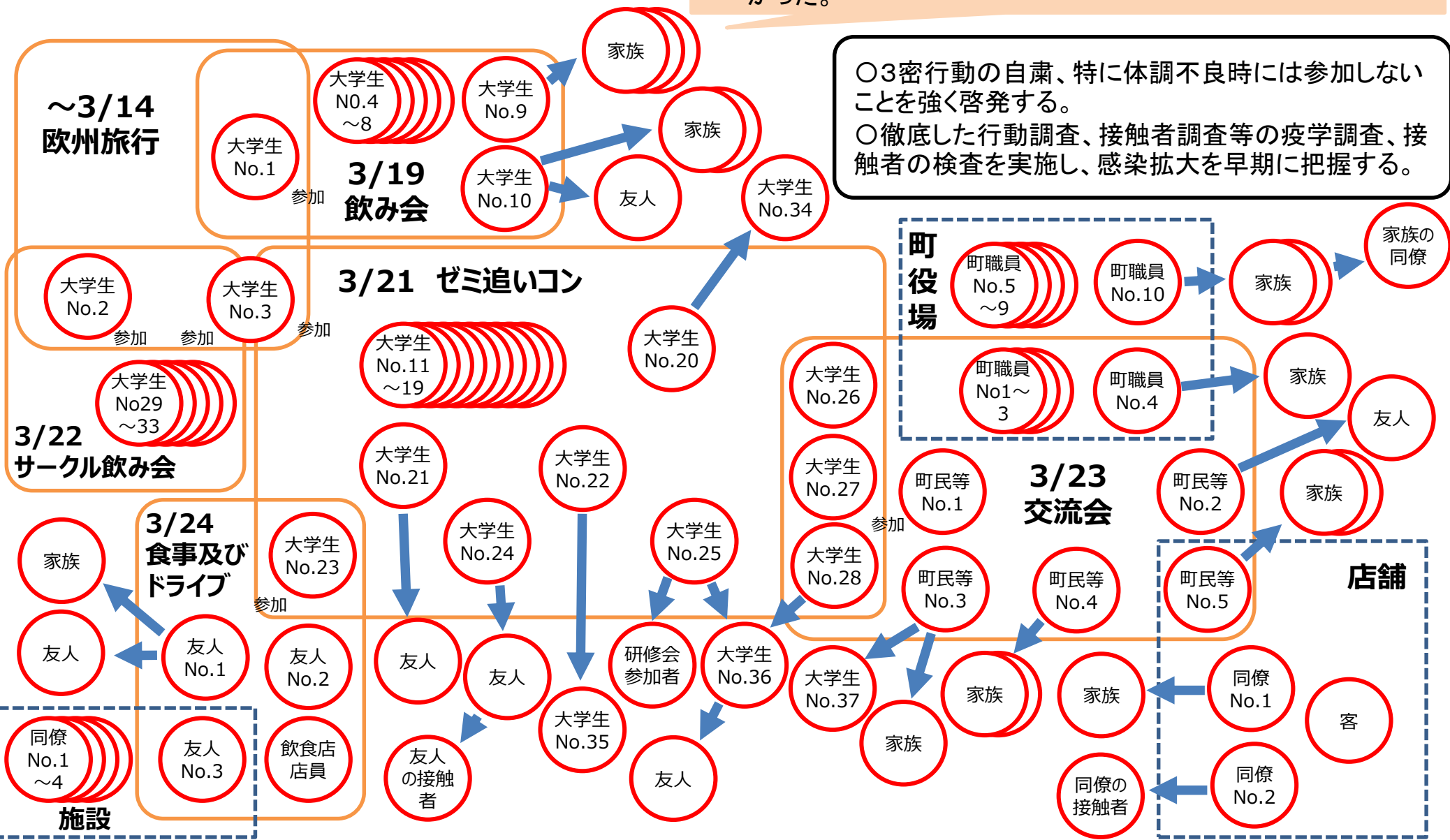
属性 No.	イベント	施設・店舗等
-----------	------	--------

大学・懇親会クラスター

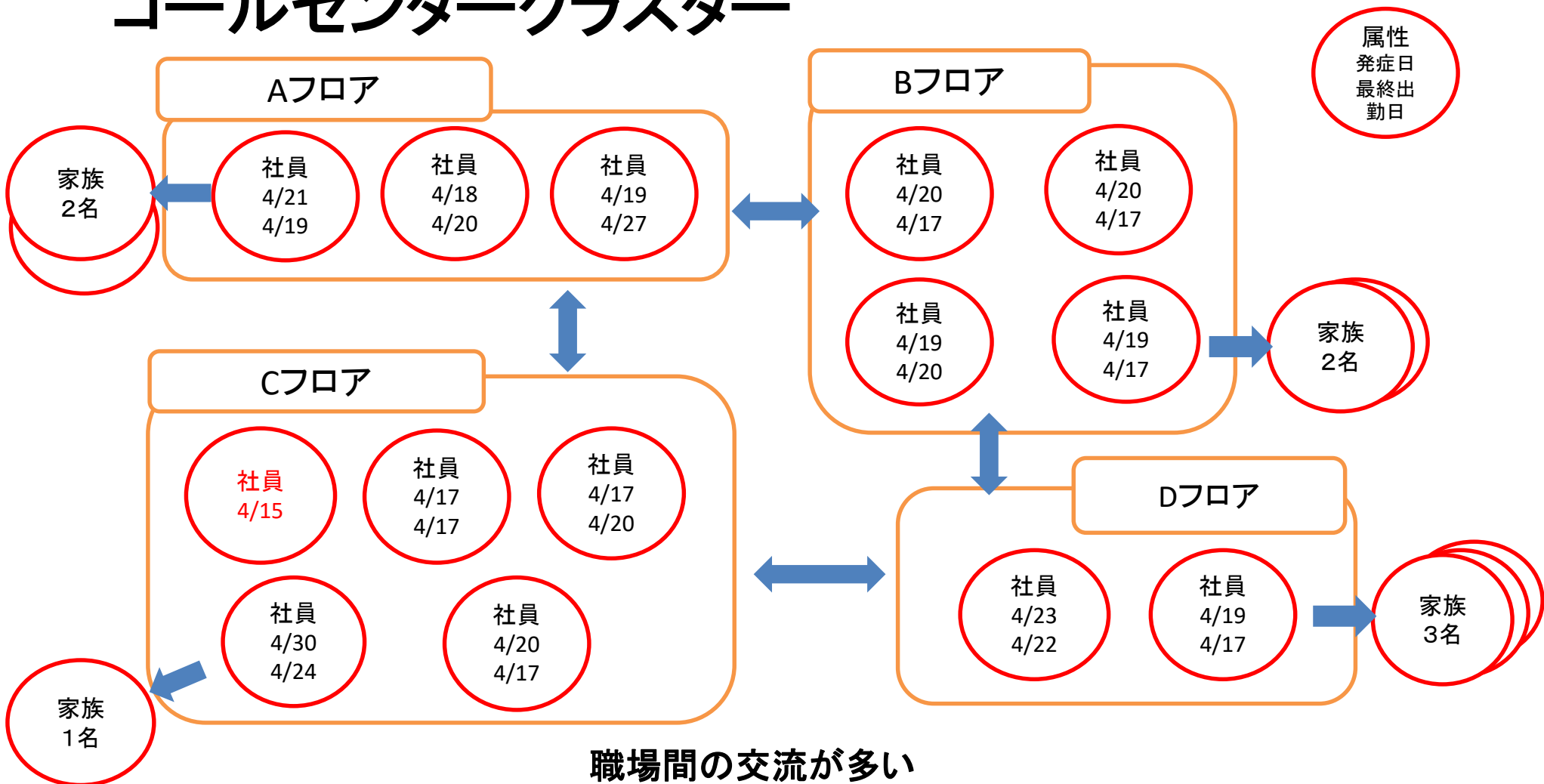
わかったこと

- 学生の卒業の時期で、旅行や飲み会等の3密を伴う行動が、短期間に、集中的に行われたため、多数感染が広がった。
- イベントの参加者から、さらに家族内、職場内へと感染が広がった。

○3密行動の自粛、特に体調不良時には参加しないことを強く啓発する。
 ○徹底した行動調査、接触者調査等の疫学調査、接触者の検査を実施し、感染拡大を早期に把握する。



コールセンタークラスター



【わかったこと】

- ・発症後も業務を続けていた者もあった。
- ・初発患者の隣席の社員へ感染したのち、フロアを越えて交流があったため、各フロア、さらに家族まで広がった。
- ・職種上、飛沫が飛びやすく、器物を共用するなど感染拡大しやすい状況であった。

- ・他部所との交流の在り方等会社内での感染予防対策の検討が必要。
- ・職種の特性により、飛沫・接触感染予防策をより一層強化する必要がある。

医療機関・高齢者施設クラスター

有料老人ホーム

医療機関

家族
面会で持ち込み

感染に気づかず施設へ

A病棟

患者

患者

患者

患者

看護師

患者

入院患者48名
中21名が感染

従事者は看護職9名、リハビリ職1名計10名に感染

看護師

看護師

看護助手

患者

家族

介護士

介護士

入居者

介護士

受診の遅れ

入居者

看護師

リハビリで感染

リハビリ技師

わかったこと

- ・看護や介護で密着する頻度が高く、容易に感染が伝播した。
- ・ゾーニングが適切にできず、グリーンゾーンの確保が困難であった。
- ・防護服の着脱を含め、従事者の感染防止対策の習熟度に課題があった。
- ・初発患者は自ら症状を訴えることが困難で、高熱等の症状もなく発見が遅れた。
- ・職員が感染あるいは濃厚接触者となったため、体制が脆弱になった。

B病棟

患者

有症状
職種・属性

無症状
職種・属性

- ・施設内感染症対策ガイドラインの作成・徹底
- ・施設内の感染症対策に係るリーダーの育成
- ・1例発生時から感染拡大の可能性を念頭に早期対応(専門サポートチームの早期介入)
- ・入所時の健康観察の徹底
- ・従事者が感染者や濃厚接触者となった場合の人員確保のしくみの構築